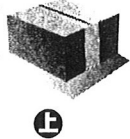


2月25日(水)

2015年(平成27年)

死後への備え



「遺品整理」から考える

核家族化などによる一人暮らし高齢者の増加に伴い、孤独死などの問題が深刻化している。そんな中、故人の生前の持ち物を身内に代わって片づける「遺品整理業」が注目され、県内でも約150人の遺品整理士が活動している。一方、ニーズの高まりにつけ込んださまざまな整理や高額請求などトラブルも発生。泣き寝入りする遺族も少なくない。今、すべき「死後への備え」とは何か。遺品整理の現場や専門家の意見を3回に分けて紹介する。【原田悠目】

一着、丁寧に折り畳む。服のポケットなどもくまなくチェックし、中に何か入っていないか確認。ノートや手紙を見つけると、「女性の人生の一部だから」と、最後まで読み込む。

時にかわいがってもらう。たなと笑顔を浮かべた。「丁寧に整理してもらい、本当に感謝しています」と話した。

「自分が世話してあげれば」。そんな後悔と同時に、「祖母のような孤独な高齢者や、残された家族の支えになりたい」と、運送会社員から遺品整理士への転身を決めた。

延原さんが遺品整理士を志したのは、祖母の突然の死だった。2010年11月、祖母の延原静子さん(当時73歳)が交通事故で亡くなった。静子さんが小学生だった頃、亡くなった女性と撮った写真が何枚も見つかった。近づく一人暮らしをしてきたが、周囲には、高額請求や遺品のずさんな扱いをする業者が数多くあった。「遺品整理を遺品『処分』と混同している」。延原さんは

人生に向き合う

故人を思い 丁寧に確認

昨年12月、和気町日室の遺品整理会社「ラストイック」の作業に同行した。向かったのは岡山市内の市営住宅の一室。亡くなった91歳の女性は独身で、数十年間一人暮らしの状態が続いていた。赤磐市に住む親族男性(29)が「仕事が忙しく、自分だけでは片付けられない」と依頼した。

別のスタッフ1人と台所用品や食器を段ボール箱に詰め、タンスなどを運び出す。おしゃれに気を使っていたという女性

男性は「(女性は)子供が忙しく、ほとんど面倒がいなかったから、幼いを見られなかったという」。

「お邪魔いたします」。女性宅の前で、遺品整理

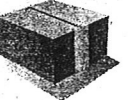


亡くなった女性宅に残された衣服を着つつ丁寧に整理する延原直樹さん(岡山市で)

悪徳業者、相次ぐトラブル

死後への備え

「遺品整理」から考える



中



悪徳業者とのトラブルを防ぐため、定期的に説明会を開いている遺品整理士の延原直樹さん(中央)ら一和気町で

遺品整理士



遺品整理を巡って、高額請求や不要品の不正投棄など悪質な業者によるトラブルが相次いだことから、業界の健全化を図ろうと、2011年9月に有志業者らで作る一般社団法人「遺品整理士認定協会」(北海道千歳市)が発足。同11月に遺品整理士の民間資格を創設した。業務内容や心構え、遺品整理にまつわる法制度などを約2カ月

間、通信制で学ぶ。レポートで所定の成績を収めた合格者には遺品整理士の認定証書が発行される。昨年12月末現在、同協会に認定された遺品整理士は全国で約6300人、岡山県内では約150人。ただ、資格に法的根拠がなく、同協会での通信講座を受けることなく活動する業者もあり、こうした業者がトラブルを引き起こしているともみられている。

は、故人の持ち物を、現金や骨董品などの貴重品▽仏壇や布団など供養が必要な品▽廃棄物・リサイクル品—などに分類し、相談のうえ、遺族に渡したり処分したりする。ところが、遺族から鍵を預かり、立ち会いなしで故人宅を勝手に訪れる▽土足で室内に入り、故

は、故人の持ち物を、現金や骨董品などの貴重品(北区南方2)にも、相談が寄せられている。東京都在住の60代男性は昨年3月、岡山県内に住んでいた亡父の遺品整理を業者に依頼。同年7月までに、頼んでいない部屋の家具を撤去させられたうえ、明細書もなく30万円を請求された。

1LDKの相場で、整理作業が6万〜8万円、遺品の処分費用が4万〜6万円という。だが、依頼していない部屋についても費用を請求される悪質なケースがあるという。

また、県内在住の女性(45)は、亡父の自宅にあ

複数業者から見積もりを

遺品整理業に対する需要の高まりで、関連業者は全国で7000社以上に上るとみられ、悪徳業者によるトラブルが後を絶たない。業界団体の「遺品整理士認定協会」(北海道千歳市、0123・42・0528)では毎月、

約20件の苦情・相談が寄せられているという。県内でも高額請求などのトラブルが報告されている

人の持ち物を窓からトラックへ投げ落とす▽貴重品が見つかっても遺族に知らせずに回収する—

理作業が6万〜8万円、遺品の処分費用が4万〜6万円という。だが、依頼していない部屋についても費用を請求される悪質なケースがあるという。

遺品整理士認定協会の「複数業者から遺品整理の見積もりを取り、比較してみるのが大事」としている。

「遺品整理士認定協会」(北海道千歳市、0123・42・0528)では毎月、

約20件の苦情・相談が寄せられているという。県内でも高額請求などのトラブルが報告されている

人の持ち物を窓からトラックへ投げ落とす▽貴重品が見つかっても遺族に知らせずに回収する—

理作業が6万〜8万円、遺品の処分費用が4万〜6万円という。だが、依頼していない部屋についても費用を請求される悪質なケースがあるという。

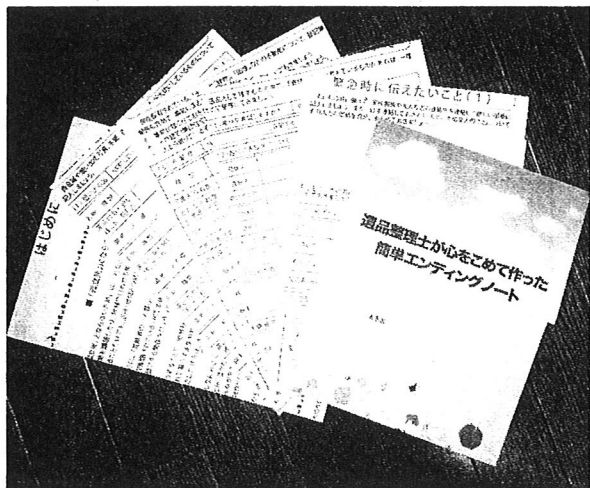
遺品整理士認定協会の「複数業者から遺品整理の見積もりを取り、比較してみるのが大事」としている。

【原田修自】

2月27日(金)

2015年(平成27年)

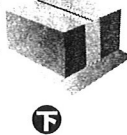
希望する方法を書き残す



遺品整理士認定協会が事前の記入を推奨するエンディングノート

死後への備え

「遺品整理」から考える



「任意後見制度」の業者に預ける。方が一、も有効という。一方、業者急増の背景にある孤独死について、より問題意識を持つべきだとの声もある。

遺品整理の専門性を高め、遺品整理士認定協会に創設された遺品整理士の民間資格。受講者は増加傾向だが、法的根拠がないことから、悪徳業者の介入に注意。遺品整理士の資格取得のため、同協会は独自の教材を作った。業務内容や法制度、背景にある社会問題などをテキストやDVDで学ぶが、あくまで民間資格のため強制力はなく、資格を得ずに活動する業者も潜在する。

親族、法律家を頼りに

「任意後見制度」は、高齢による認知症や知的障害などで判断力が衰えた人に代わり、財産管理や契約行為、法定手続きを行う「成年後見制度」の一種。弁護士や親族らを本人が事前に見直し、任意後見人として決めて、家裁が監督する。杉山弁護士は「悪徳業者は、身内を突然失った人、悪徳業者に苦しむ人、親族や地域から孤立している人……。それぞれの抱える問題を共有し、考えること。死後への備え」は、そうしたことから始まるのではないだろうか。

遺品整理士認定協会が事前の記入を推奨するエンディングノート。遺品整理士が心をこめて作った簡単エンディングノート。遺品整理士は「悪徳業者は、身内を突然失った人、悪徳業者に苦しむ人、親族や地域から孤立している人……。それぞれの抱える問題を共有し、考えること。死後への備え」は、そうしたことから始まるのではないだろうか。

【原田悠自】おわり